
クルマヤ公道
Presented by KURUMAYA KOUDO
修学旅行、彼女奪られる熱帯夜
堕ちるメス犬、去る彼女編




修学旅行の一日目
ビーチに来ている高瀬ユカリ
こんなに透明
ラブラブな雰囲気で
彼氏のユウイチ君と初キス！
でも夜にこっそり
忍び込んだ男部屋で……
チャラ男の吉良に流されて
処女を奪われてしまう…！
彼氏くんにもバレてしまって
すごく気まずくなっちゃった…
わ～!!
ユウイチくんも早く早くっ！
日焼け止め塗ったー？
それ以上焼けても知らないよ
そんなことねえって高瀬すげーかわいいよ
え…!?
ぐっ…
うぅ…！
ぐっ…！
ふう
ひぎっ…！
はあっ！
はぁ…!!
はあ…！

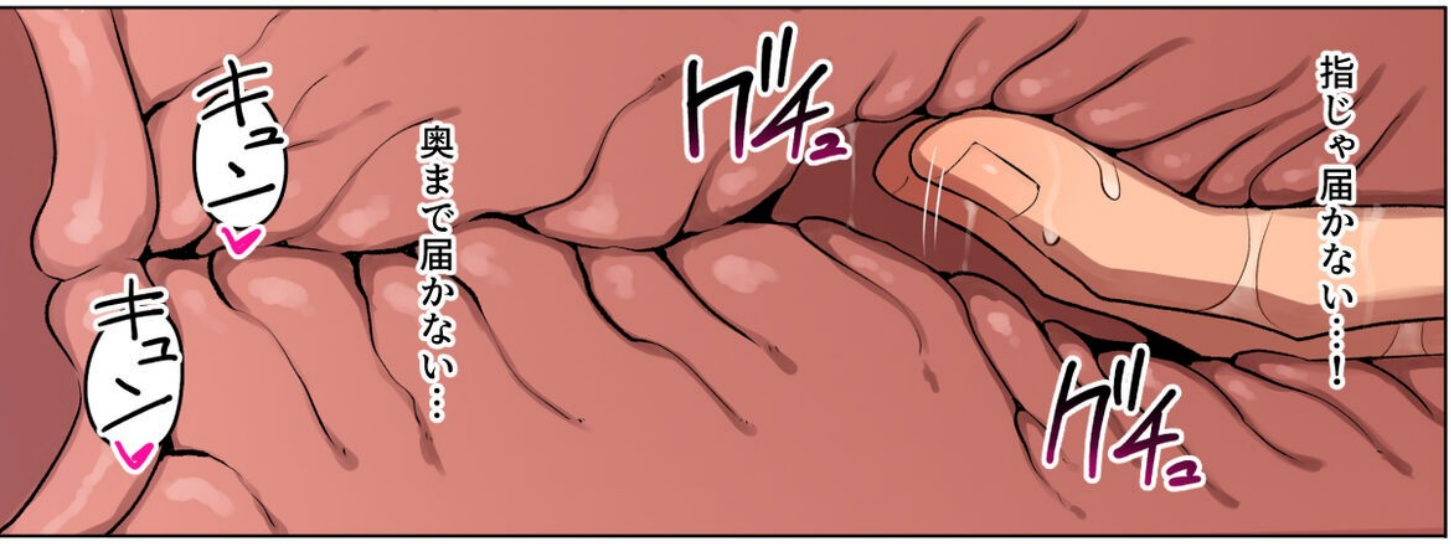

二日目の夜、もう彼氏くんを裏切らないぞと決意し、1人温泉につかっていると…
ぽーん
デカ
間違えちまったな
誰もいなかっ
がはは!!
女風呂に侵入した体育教師・石沢になんやかんや体を許してしまうちょろいユカリであった……
っ…!
んぐっ
ん
ビクッ
フッ
ゲボッ
ゲボッ
待って…だめぇ…!
あっ
あっ…!
あっ
は、
は、
は、
んはぁ…
ゲチュ
トン
トン
ゲチュ
ゲチュ
ゲチュ
彼氏くんに謝りはできたけど……それよりもおちんちんの方が気になって
ごめっ…あっ
あんっ
はぁ…ぁ…っ
ごめんね…あっ!
ビクッ
ん
最後にはセックスの気持ちよさに溺れていた…!
俺の上で必死に腰振ってるのは!
あっ
あっ
あっ
ビクッ
ゲチュ
ゲチュ

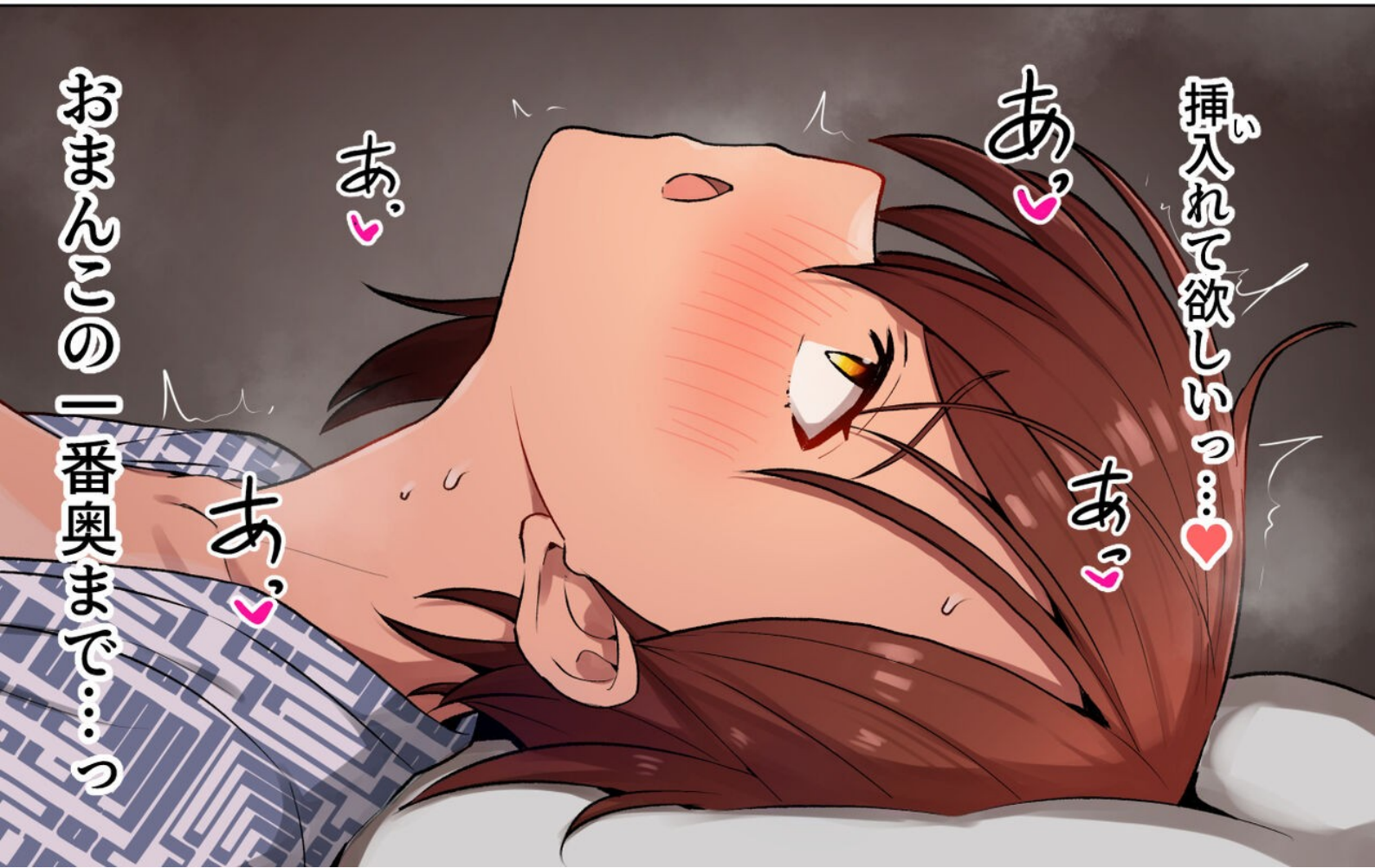

そして最終日の夜
クラスメイトが寝静まる中
ユカリはオナニーをしていた
はっ
はっ
あっ
クリ
クリ
グチュ
グチュ
グチュ
男達に犯されたことを思い出しながら……


なんで…
ヤメて
ヤメて
ヤメて
ヤメて
なんで私…
あっ…んっ
あっ
あん…
こんなに…
はっ
ムラムラするんだろう
はっ
はっ
気持ちいいの止められない…っ
クリッ
クリッ
んっ…

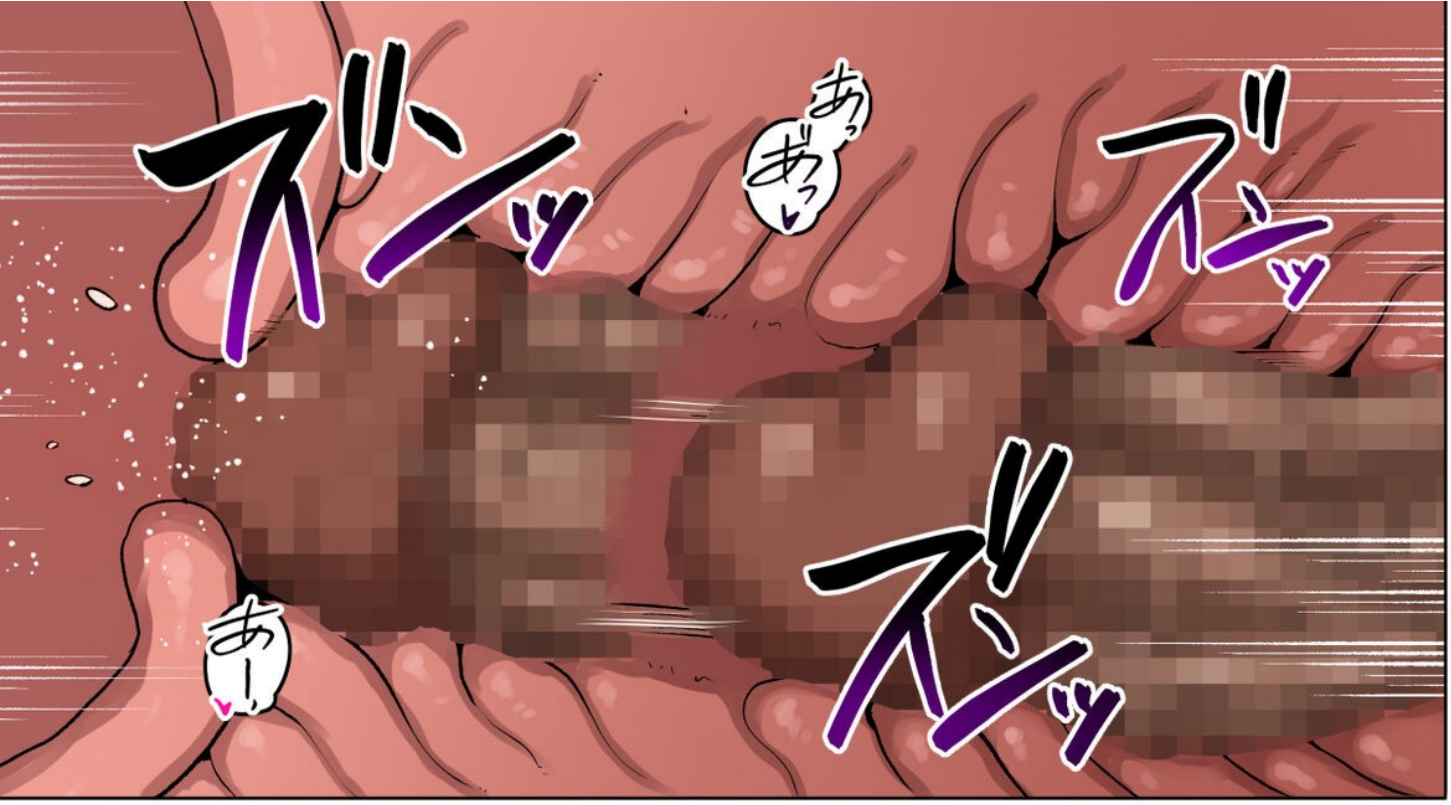

あっ
あんなに無理矢理なセックスされたけど…
んぁっ♥
あんっ
あんっ…!
んぶぅっ!!
思い出すと興奮しちゃう…
私おかしい…おかしいよ
体、こんなに熱いし…
それに…
おまんこから汁が溢れて止まらない…っ
あ、あんっ

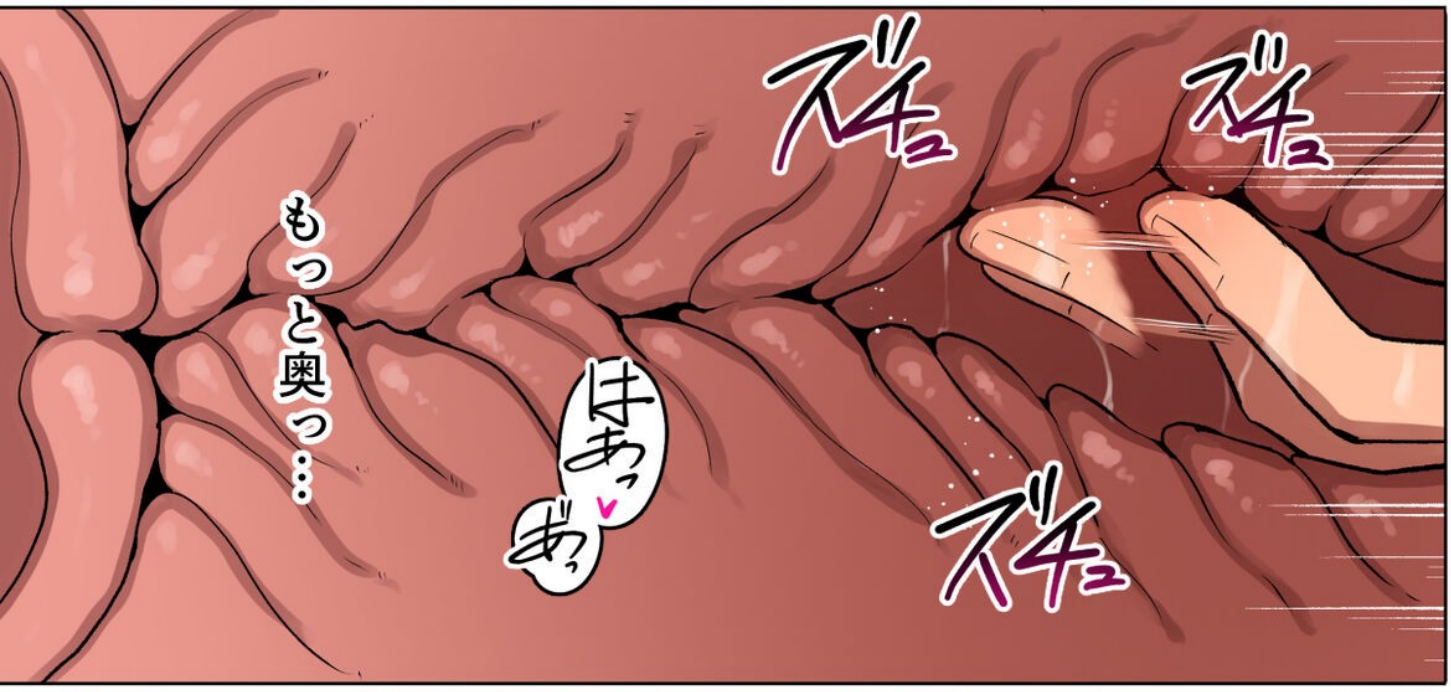

おちんちん…っ
奥までゴリって
突いてくるおちんちんっ…
グリュ…！
あぁっ…♥


指じゃ届かない…！
グチュ
奥まで届かない…
キュン
キュン
グチュ


挿れて欲しいっ…♥
あっ♥
あっ♥
あっ♥
おまんこの一番奥まで…っ


はっ
はっ
はっ
はーっ
はっ
クリッ
クリッ
ん…!
んっ
ぐっ
ぐぐぐ
ぐぐぐ
ぐぐぐ
んっ
んっ


ズンッ
あっ
あっ
ズンッ
ズンッ
あー


ズチュ
ズチュ
もっと奥っ…
はあっ
あっ
ズチュ


奥の方がうずいて仕方ないの…っ
満たしてほしいって…
おちんちん挿入れてって…
は…
は…
は…


グイッ
ビクッ
グイッ
グイッ
ビクッ
グイッ
グイッ
グイッ
フーッ
フッ
フーッ
フッ
フーッ
フッ
あっ…


フーッ
フーッ
フーッ
フーッ
フーッ
フーッ
ビクッ
ビクッ
おっ
おっ
おっ
おっ
ズニュ
ズニュ


ビクッ
ビクッ
フーーッ
フーーッ
フッ
フッ
フッ
あっ…
ハッ
あ～…っ
ベトォ…
べとべとになっちゃった……


あんなにシたのに…
はー♡
はー♡
はー♡
ムラムラが全然おさまらない……っ
クチュ
クチュ
なんで…っ
ヒクッ…
おまんこが…っこんなに切なくなるの
ヒクッ…
こんなの変態みたいじゃんびっちだよ、びっち……
私こんなんじゃなかったのに…

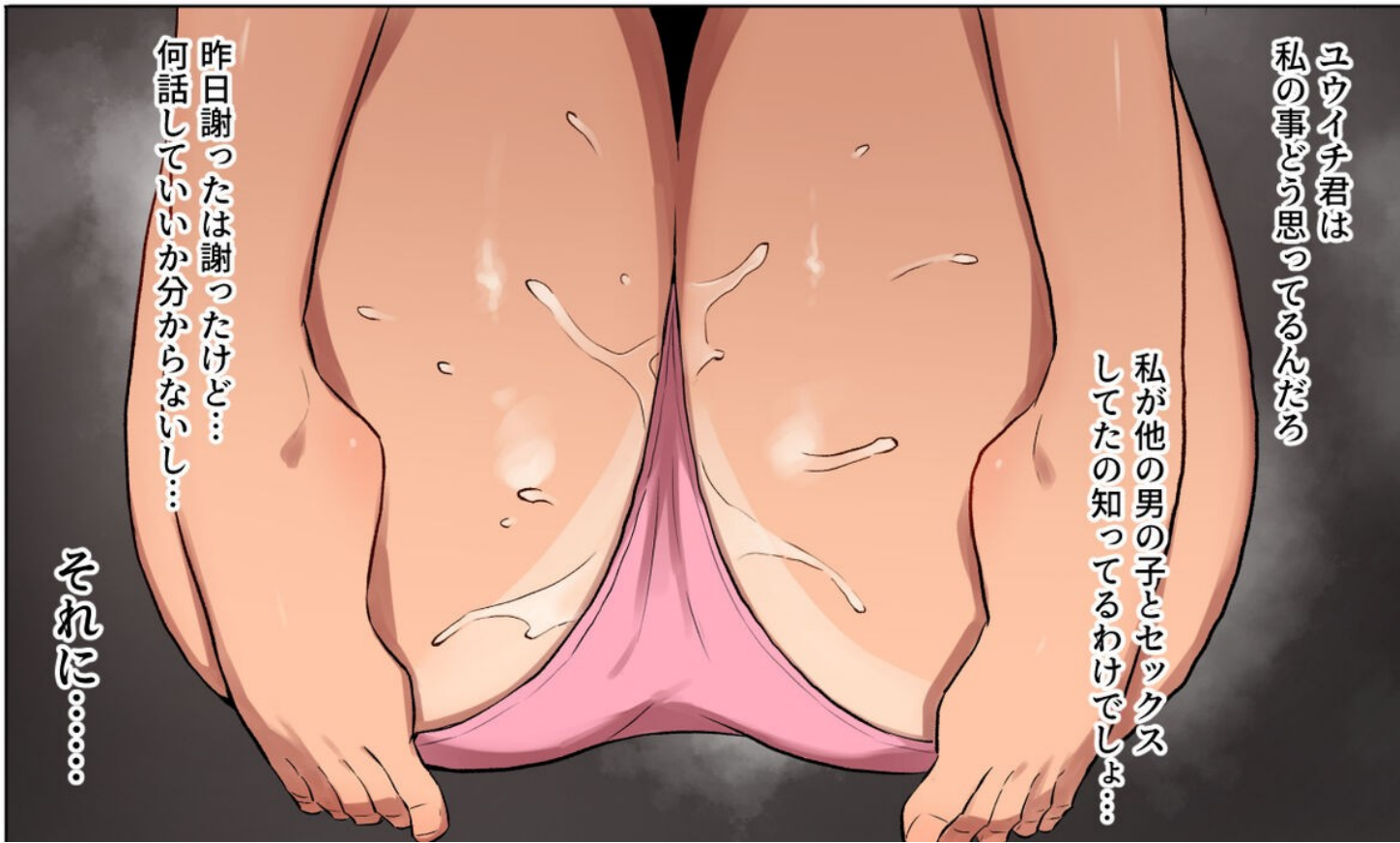

ポポン♪
ブー ブー
ポポン♪
ふわ～…
おはよー
おはよう
二人とも
早いねユカリちゃん
もう着替えたんだ
昨日も寝るの
遅かったのに元気だね
眠くないの？
うん平気
ほら、私体力あるし
流石陸上部…


あ…！今日は彼氏くんと自由行動できる日だもんね
楽しみだから早く起きちゃったんだ！
いいな～！
いっぱい楽しんできてねユカリちゃん！


あはは…うんっ
そうだね…


そっか…今日はユウイチ君とデートするんだったっけ
観光地とか行くのかな…
そっか……


んーなんかな…
なんだろ……
めんどくさいかも…それ


ユウイチ君は
私の事どう思ってるんだろ
私が他の男の子とセックス
してたの知ってるわけでしょ…
昨日謝ったは謝ったけど…
何話していいか分からないし…
それに……



すごくムラムラする…

こんな状態で…
今更普通のデートなんてね…

そんなことより……


こういうこと…♥
はーーー
はーー
はー
はー


あれぇ…？
ユウイチ君？
何で――？
ヘッ
ヘッ
ヘッ
あ♥


これ…
おちんちんだ…っ
ピクッ
ピクッ
やった…！


あったかい…おちんちんっ
ぴくぴくしてて可愛い…♥
グリュ
グリュ
グリュ
ほっ
ほっ
ほっ
はっ
グチュ
グチュ

おちんちんっ
お腹の中ゾクゾクしてくるっ
おちんちんっ
ヒクッ
ヒクッ
あっ
あっはっ
あ


あっ
ヌプッ…


あっ
あっはーっ
ヌチッ…


あー…
えーっと…
結局なんで
こんなことに…？
ニチッ
ニチッ


ま、いいや
はー
はー
もう挿入するの
我慢なんて…
むりっ
ニュプッ


あはぁ…！♥
ビクッ
ビクッ
あっ
あっ
スゴ
おちんちん
来たぁ…！♥
ツ
あ…っ
すごぉ…！♥
ユ、ユカリちゃん！
な、
生でっ


ミチッ
ミチッ
ミチッ
キュン…♪
ビクッ
は、
は、
あ～～っ……♥
ビクッ
キュン♪
キュン♪
キュン♪
おちんちん挿入(はい)ってる…っ
おまんこにぐぽって刺されてるっ…♥


あ～…❤
ゾク
ゾク
ゾク
これこれぇ…！
ハーッ
ハーッ
ハーッ


キュン❤
キュン❤
キュン❤


これが欲しかったのっ❤
プクッ


ユウイチ君のおちんちん
ぴくぴく動いてて可愛い…
あ、そうだ
童貞もらっちゃったんだ
ふふっ
なんか嬉しいかも
ユウイチ君、気持ちいい？
これがおまんこっ
これすごいぃ…！
奥あったかくて
ぬるぬる吸いつく…っ！
うん、ユカリちゃん
気持ちよすぎるよっ！
グリュ
グリュ
グリュ
クリ
クリ
クリ

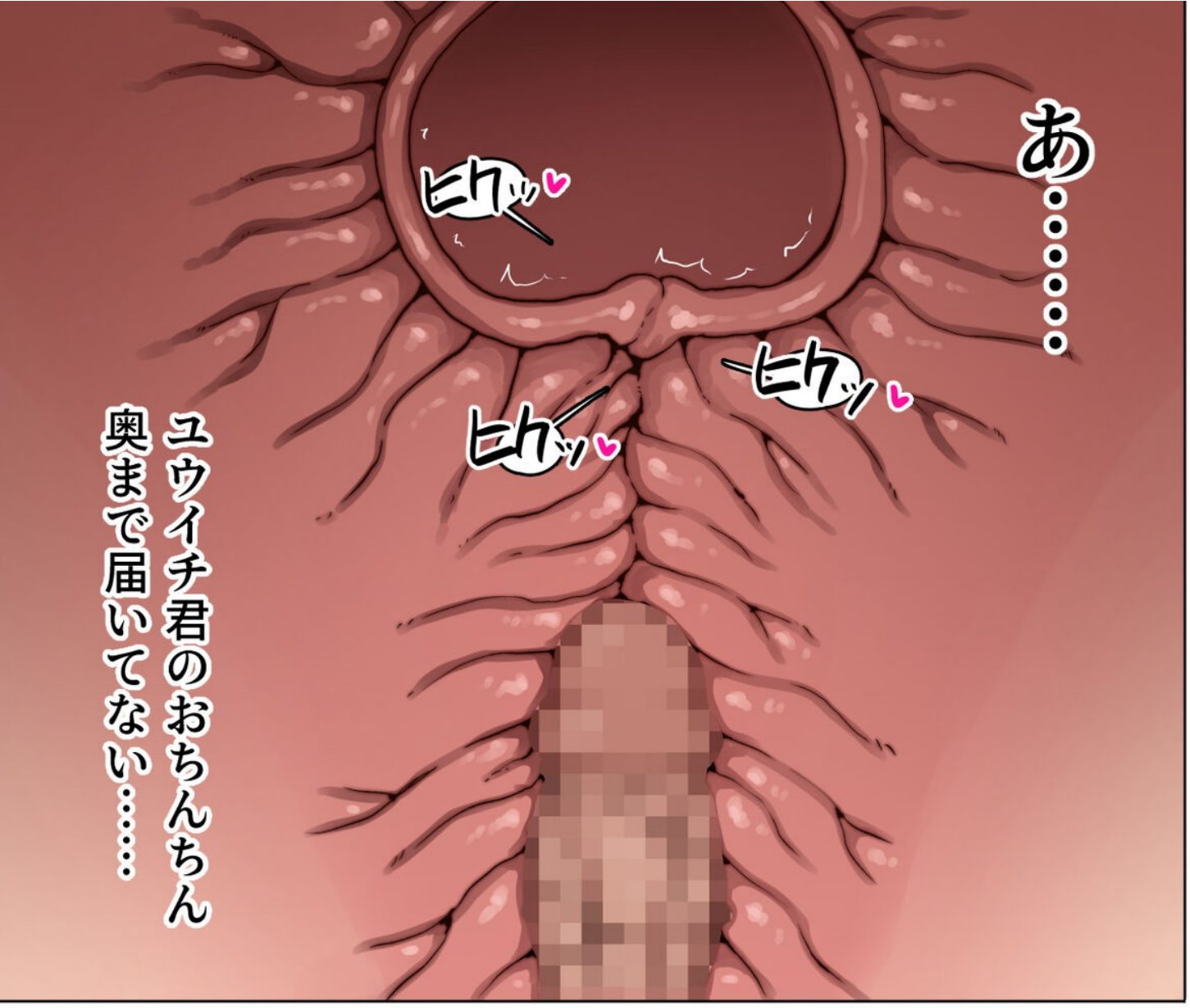

私もいいよ…♥
ほら見える？
一つになってるところ
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
ビクッ
こうやって
ちゅぽちゅぽするの♥
擦ってるだけで
気持ちいいよね…！
グプッ
グプッ
グプッ
グプッ
うんっ…僕！
気持ちよすぎるよっ
ぬるぬるがおちんちん
擦ってすごぉ…！
ブポッ
ブポッ


ぐりゅぐりゅって
膣内で回して～…♥
ああああっ
ユカリちゃんっ
ほらうねってるの
おちんちんに伝わる？
ゴリッ
ゴリッ
ゴリッ
もっと、もっとして
ユカリちゃんっ
うん、もっと
気持ちよくなろ！
グチョ
グチョ
ふふっ…
ユウイチ君かわいい
やっぱり
セックスって最高っ…！
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
おちんちん
最高…！
最…


モヤ…
……
あれ…？


なんだろ…
あ、
あ。
もっと!!
すごいよっ
何か違和感があるような…
あ。


うーん、セックスは
確かに気持ちいいし…
ユウイチ君が好きって
気持ちもあるし…
だけど……

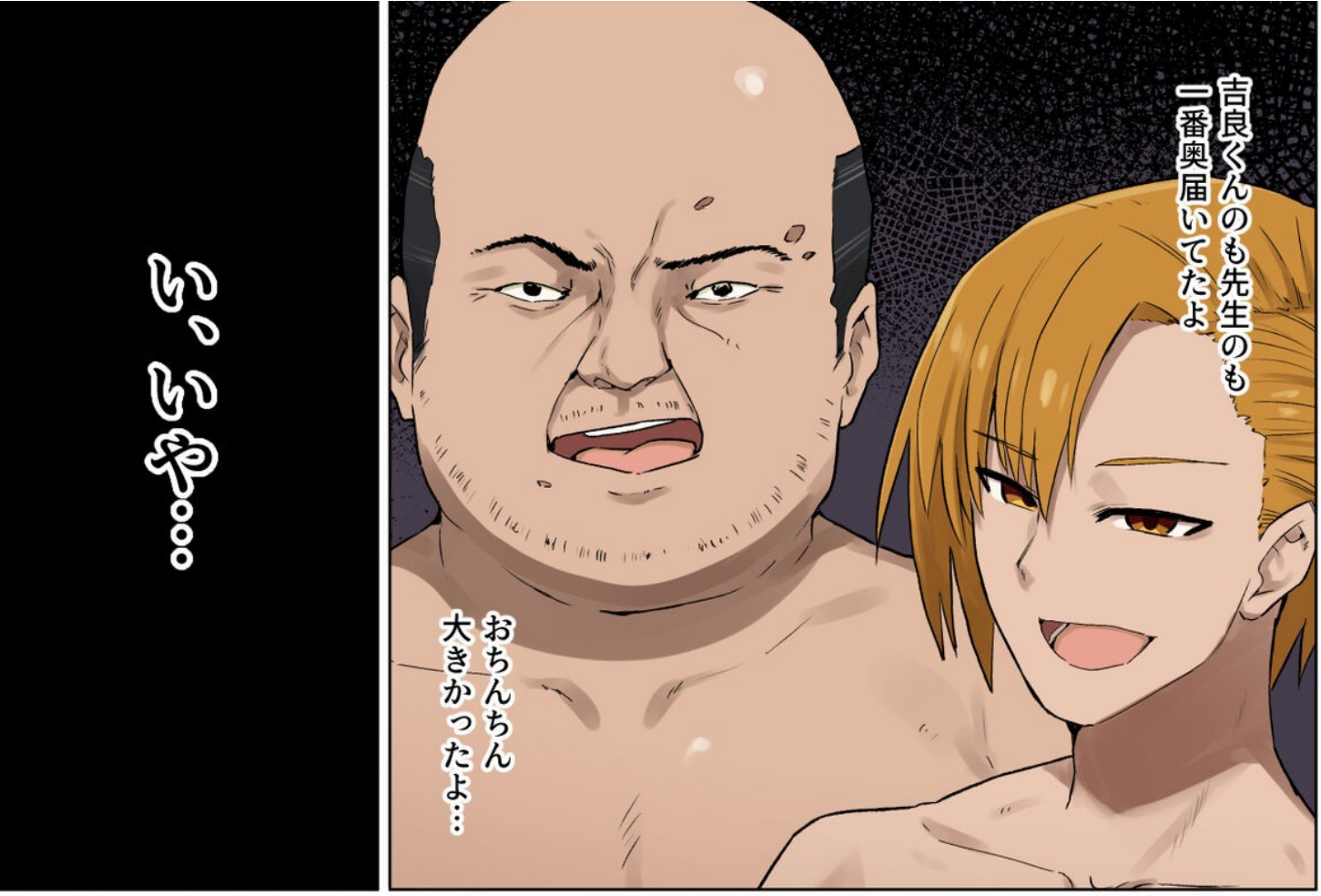

あ……
ヒクッ♥
ヒクッ♥
ヒクッ♥
ユウイチ君のおちんちん
奥まで届いてない……


いやいや…
そんなこと……っ


ズプッ
ちゃんと一番奥まで挿入すれば…


あ…届かない……
あーー…
そっか…
ヒクッ
ヒクッ
ヒクッ
ニチッ
ニチッ
ユウイチ君のおちんちんって小さいんだ…


そうなんだ……


吉良くんのも先生のも
一番奥届いてたよ
おちんちん
大きかったよ…
い、いや…


まあユウイチ君は彼氏だしね
ビクッ
おちんちんだけ
じゃないっていうか……
ハーッ
ハーッ
うん、そうだよ…！
好き同士で付き合ってる恋人だもん
ビクッ
ハーッ
好きなら無理矢理されるより
何倍も気持ちいいはずだよ…！


それにほら…
うーん…
あ！意外と体力とか
あるかもしれないしね
ハッ
ハッ
ハッ
うん……
あ、おちんちん…
びくびくしてるね
もうさっきから
限界近いよ…！
だめ…！
もっと頑張って
う、うん
できる限り…
ビクッ


ちょっ…！
いきなりっ激しっ
ユウイチ君っ
頑張って…！
む、むりっ…！
耐えられないよっ
パンッ
パンッ
パンッ
ほらほらっ…！
ズポッ
ズポッ
いけるって！
ユウイチ君だって
男の子でしょっ


ユカリちゃんと、とめてっ…！
激しすぎて射精ちゃうっ…
え～もう…しょうがないなあ
ほら、ゆっくりしてあげるから耐えてね…♥
ちょっ…あっそれはそれで…
ね、ユウイチ君口開けて…♥
わぁっ…！ユカリちゃんっ!?
えっちだねこれ…
二人でもっとドロドロになろ♥


ユウイチ君っ…
ハァ
ハァ
ちゅ…
あっユカリちゃんっ
ハァ
ちゅ
れろっ
レロッ
レロッ
レロッ
べちゅっ
んちゅっんっ
ぶちゅっ
グュル
グュル
んむぅっ
んむっんっ
ちゅぷっ
んちゅ
ビクッ
ちゅっ


はーっ…
はぁっ…！
はぁ…
はーっ…♥
ダラ～～…


んはぁっ♥
あっ
ブルン
ゲュ
ゲュ
ゲュ
あぁっ♥


ゲュ
ゲュ
ゲュ


ユカリちゃんっ
その動きやばいっ！
これ射精るっ…！
すぐ射精ちゃうよ！
ん～…
いま射精したら
中出しになっちゃうよ？
ハッ
ハッ
ハッ
ブルン
ブルン
ゲシュ
ゲシュ
ゲシュ
ゲシュ
そ、そんなっ！
ビクッ
あ～
あっ
あ
ちゃんと耐えないとね
ユウイチ君っ…！
ほらほらっ…！
ギュプ
ギュプ


ビクッ
ユカリちゃんっ
待ってっ…！
ゆっくりっ…
ビクッ
ユカリちゃん…
凄い顔してる……
ハーア
ハーア
ビクッ
ハーア
初めて見るよ
こんなユカリちゃん
エッチなことで頭いっぱいで
気持ちよさそうな下品な顔……
女の子ってみんな
こんな風になるの…？
グイッ
グイッ
グイッ
グイッ
あんなに一生懸命
腰を振って喘いで…

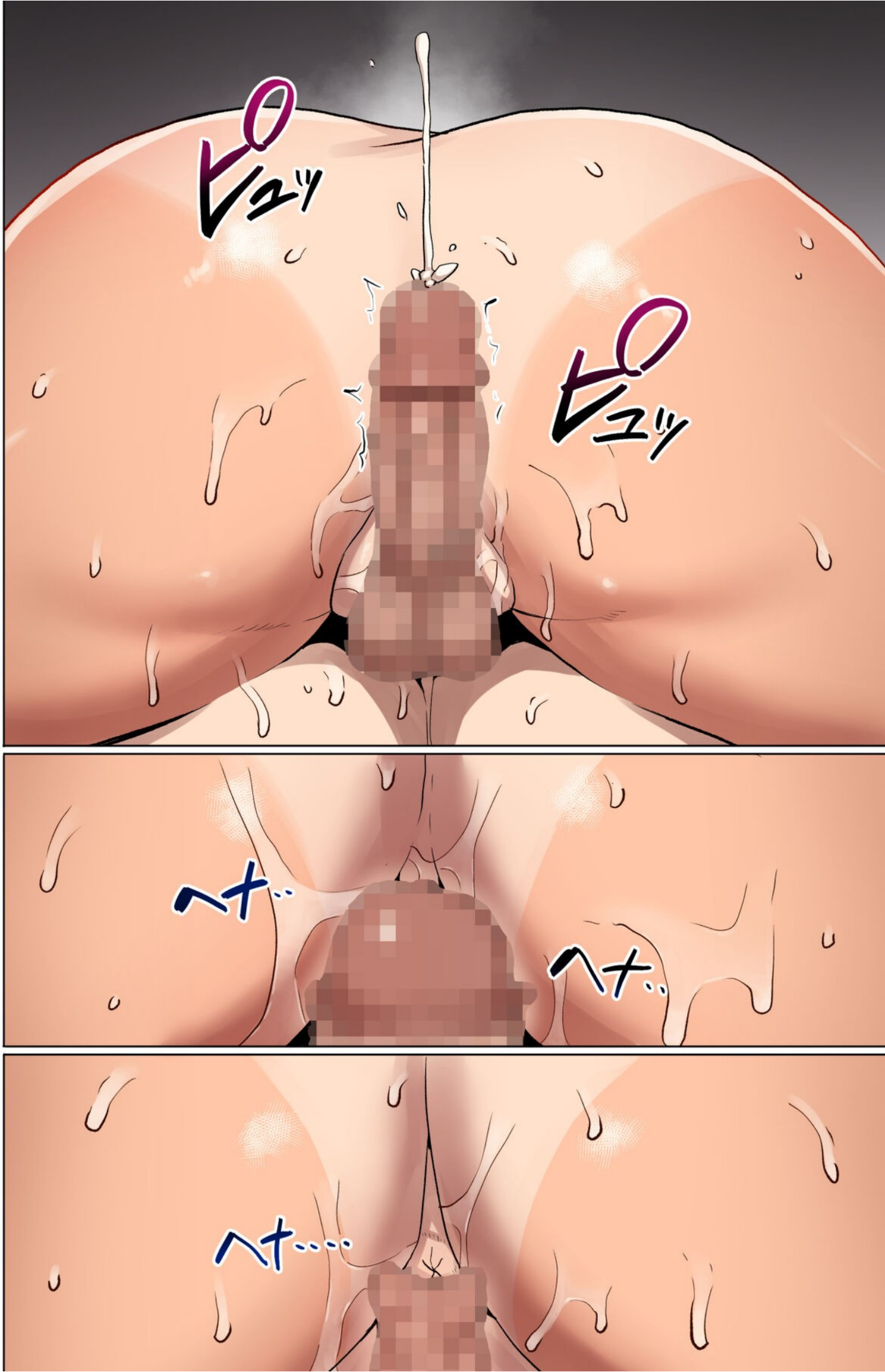

一昨日までのあのユカリちゃんは
どこに行ってしまったんだろう…
僕、君が吉良君たちと
セックスしてたの許してるんだよ…
今のユカリちゃんでも
まだ大好きだけど……
元の大人しかった
君にもどってほしいな……
こんな下品に、動物みたいに
セックスを楽しむなんて…
僕たちらしく
ないんじゃないかな…
それとも本当はそういう
付き合い方がしたかったの…？


僕も…ユカリちゃんの期待に応えたい…！
僕だって男なんだっ…！
女の子を満足させられるようにならないとっ！
ど、どう？ユカリちゃん気持ちいいかい…!?
あ、えっ…！下からっ突き上げてっ
あっ
あっ
うん、もっと！もっとして…！
あっ

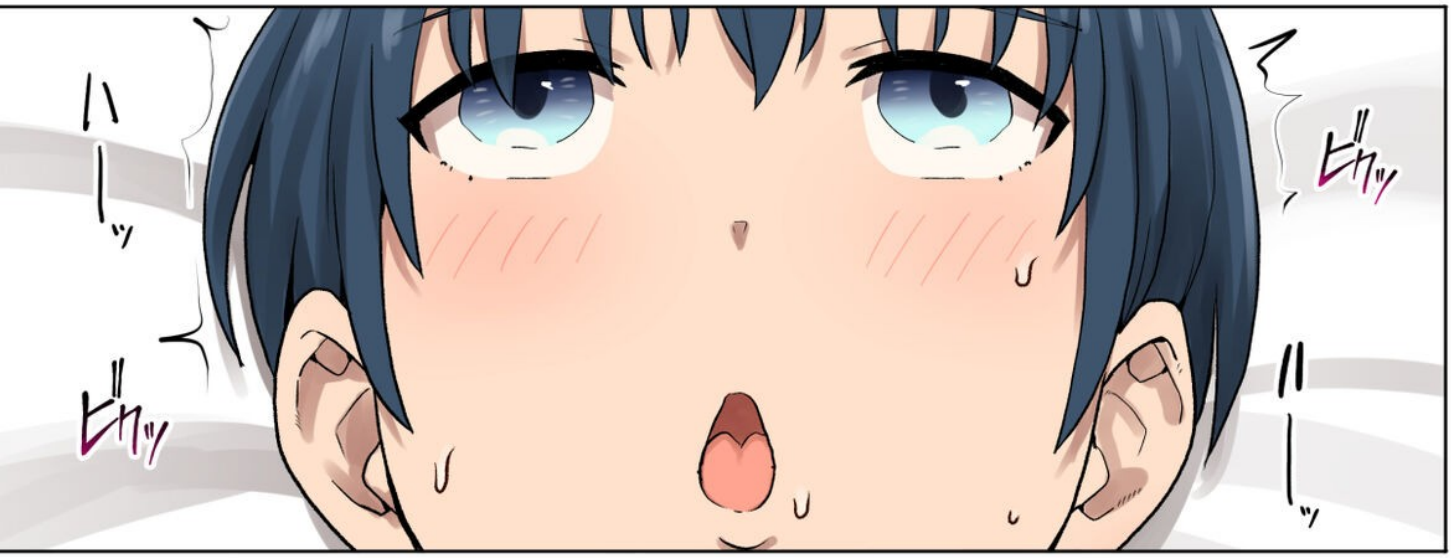

あっ激しいっ！
すごいっ…！
いいよっ！
ユウイチ君っ…！
ユウイチ君から
攻めてくれるなんて…！
嬉しいっ…！
もっと…もっとして♥
もっと…！

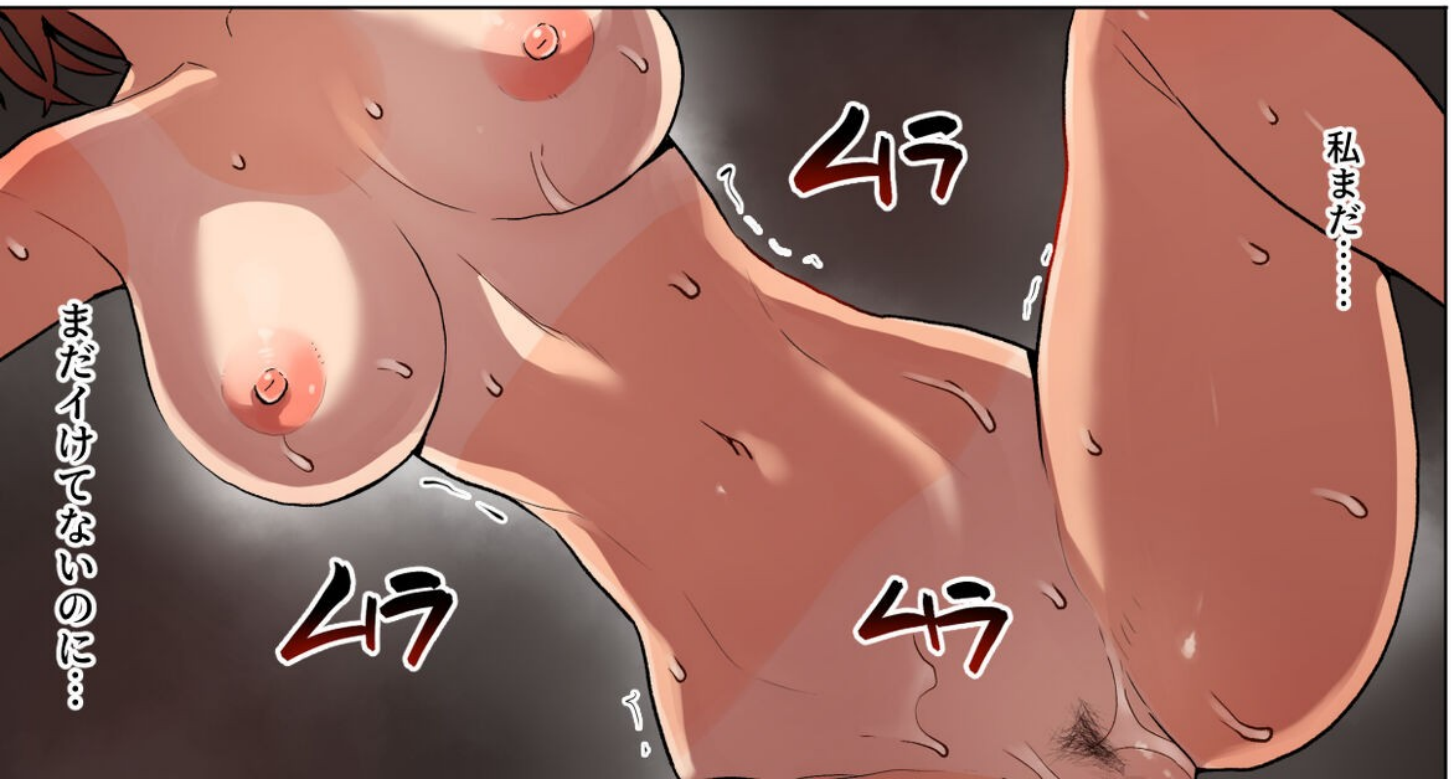

もっと
ドピュッ
ハァ
ハァ
あ…
ビュル
ビュル
ビュル


あ、あれ…？
射精ちゃったの……？
え～……
ビクッ
ビクッ
ちょっ…ユウイチ君っ？
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ…
放心してる……


ヒクッ
ヒクッ
ヘナ…
ヘナ…
ヘナ…


あー…おちんちん
しぼんじゃってる…
うそ…

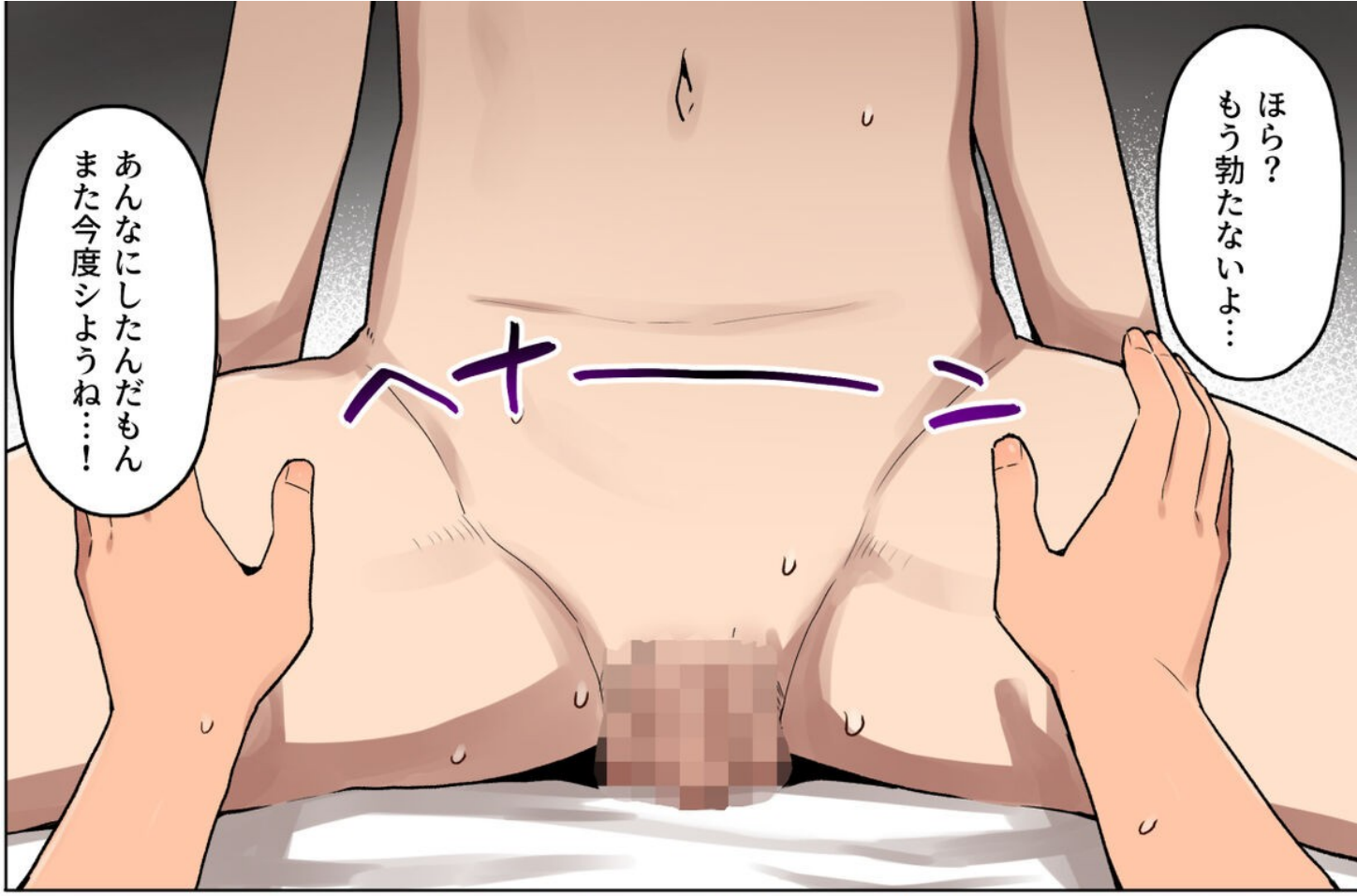

ハーッ
ビクッ
ビクッ
ハーッ


私まだ……
ムラ
まだイけてないのに…
ムラ
ムラ

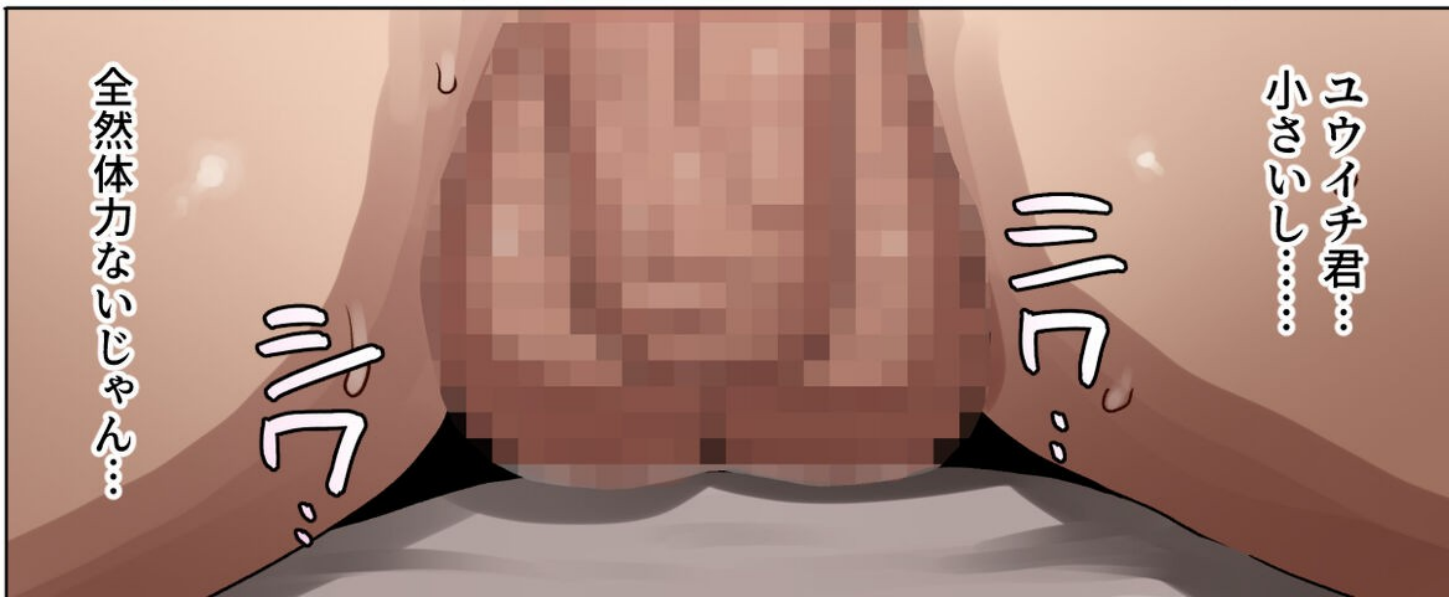

ちょ、まって
ユカリちゃん・・・！
もうムリだよ…
あっ…
クプ
クプ
ねえ、聞いてる？
ユカリちゃん！


一回射精しただけで
終わりだなんて嘘でしょ…？
もう一回、勃たせてよ……
チュプ
チュプ


あっだめだって…！
イったばかりだから…！
ねえユカリちゃん！
チュプ
チュプ
なんで勃たないの……
お尻の穴とかどう…？
ひゃ!!
何やってるの!?
汚いよそんなところ
そんなにしたって
もうムリだって…!!

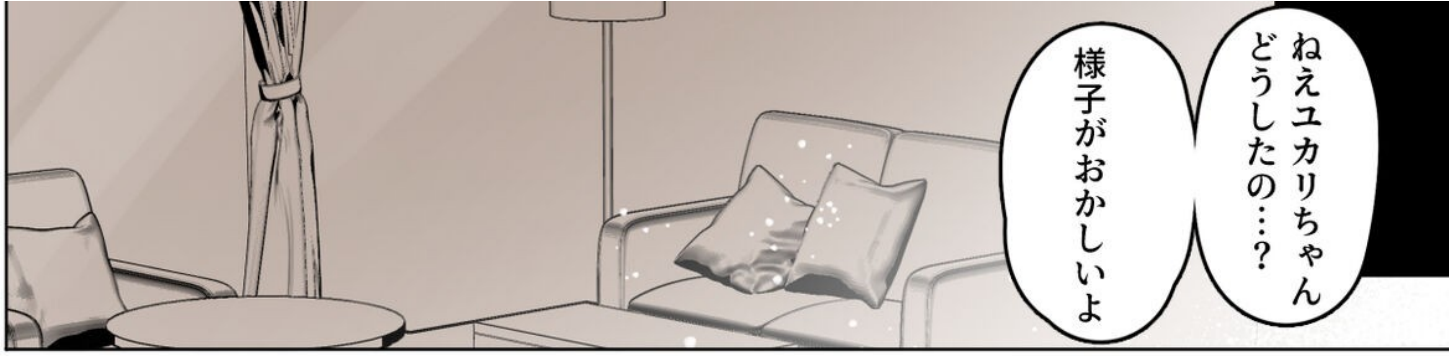

ほら？
もう勃たないよ…
ヘナーーン
あんなにしたんだもん
また今度シようね…！


あんなにって…
私まだまだ……


ユウイチ君…
小さいし……
ニヲ…
ニヲ…
全然体力ないじゃん…


ムラッ
ムラッ
ムラッ
1人だけイって終わり…？
何それ…ずるい…
ずるいよ……ユウイチ君…っ
ヒクッ…
ヒクッ…


私全然足りない……っ
もっとエッチしよ…
もっと…
気持ち良くさせてよ…！
ヒクッ
ヒクッ


ねえユカリちゃん
どうしたの…？
様子がおかしいよ


朝から変だったし…
急にセックスだなんて…
前までそんなんじゃ
なかったじゃん…
吉良君とのことも…
僕は許してるからさ
前みたいに
戻ってよ…！


ね？僕は君がどんなでも
味方でいるからさ…！
ズイ
う…ん…？
ありがと…
なんで僕がこんなこと
言ってるか分かる？


イラ…
なんで…？
そんなの…
決まってるじゃん！
ガシッ
好きだからだよ
僕は高瀬ユカリのことが
世界一好きなんだもん！
だから前みたいに
普通の恋人でいようよ…！
ね…？
いいでしょ!?


ユカリちゃんも
そう思うでしょ？
ぼ、僕の事を大切に
思ってくれてるんだよね！
だからあんなに激しく
求めてたんだよね
ね…？
うん……
そーだね…

数回後…



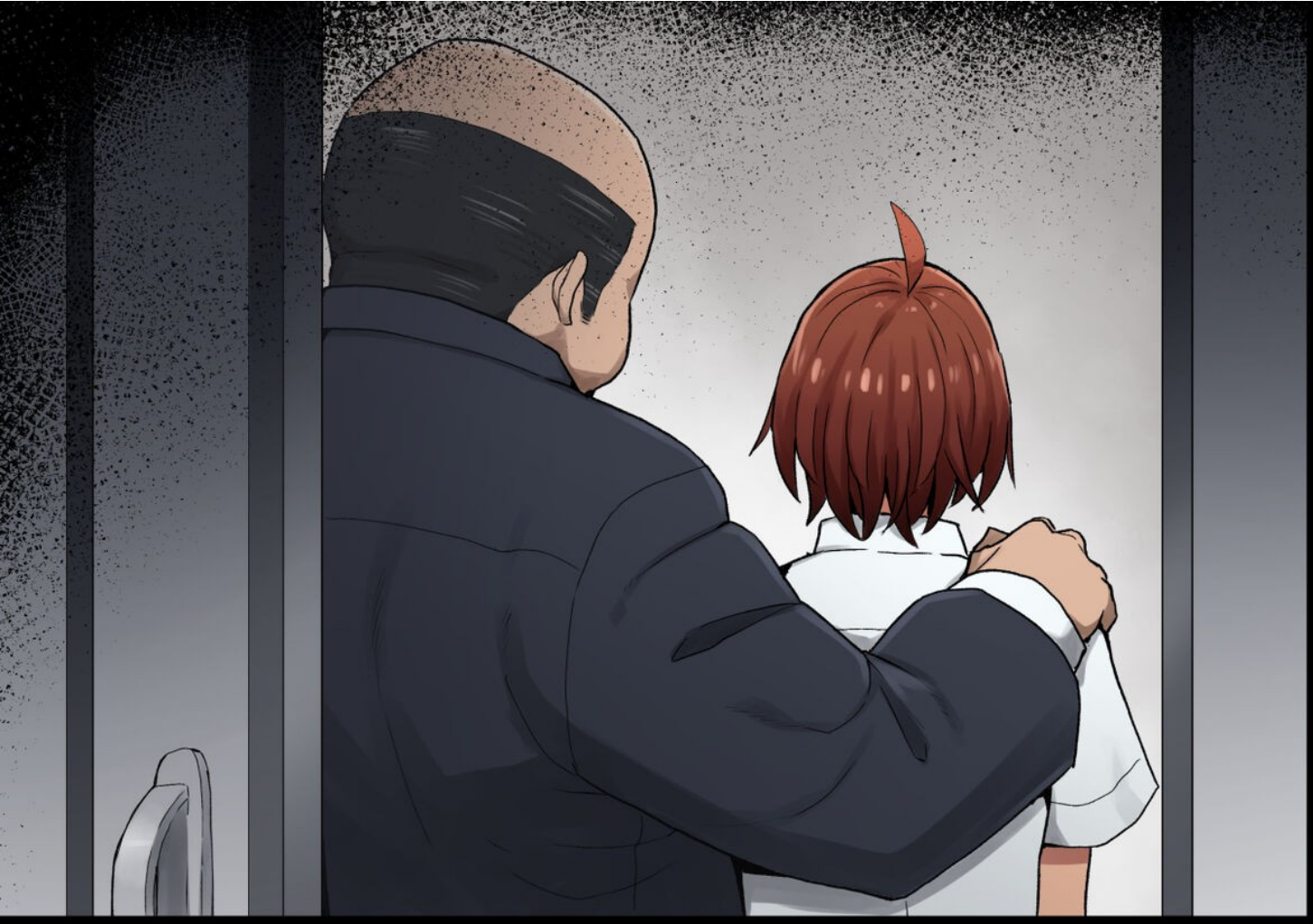

んぐっ♥
ビクッ
んっ
ぐうっ！
ビクッ
んっ！♥
ビクッ
んふぅ…！
パンッ
キュン
キュン
パンッ
パンッ
パンッ


ドチュ
ドチュ
ドチュ
ドチュ
あんっ♥
あっ♥
はぁっ…！
グッ
プッ
あぁ…！
んはぁ♥
ビクッ
あっ
ブルン

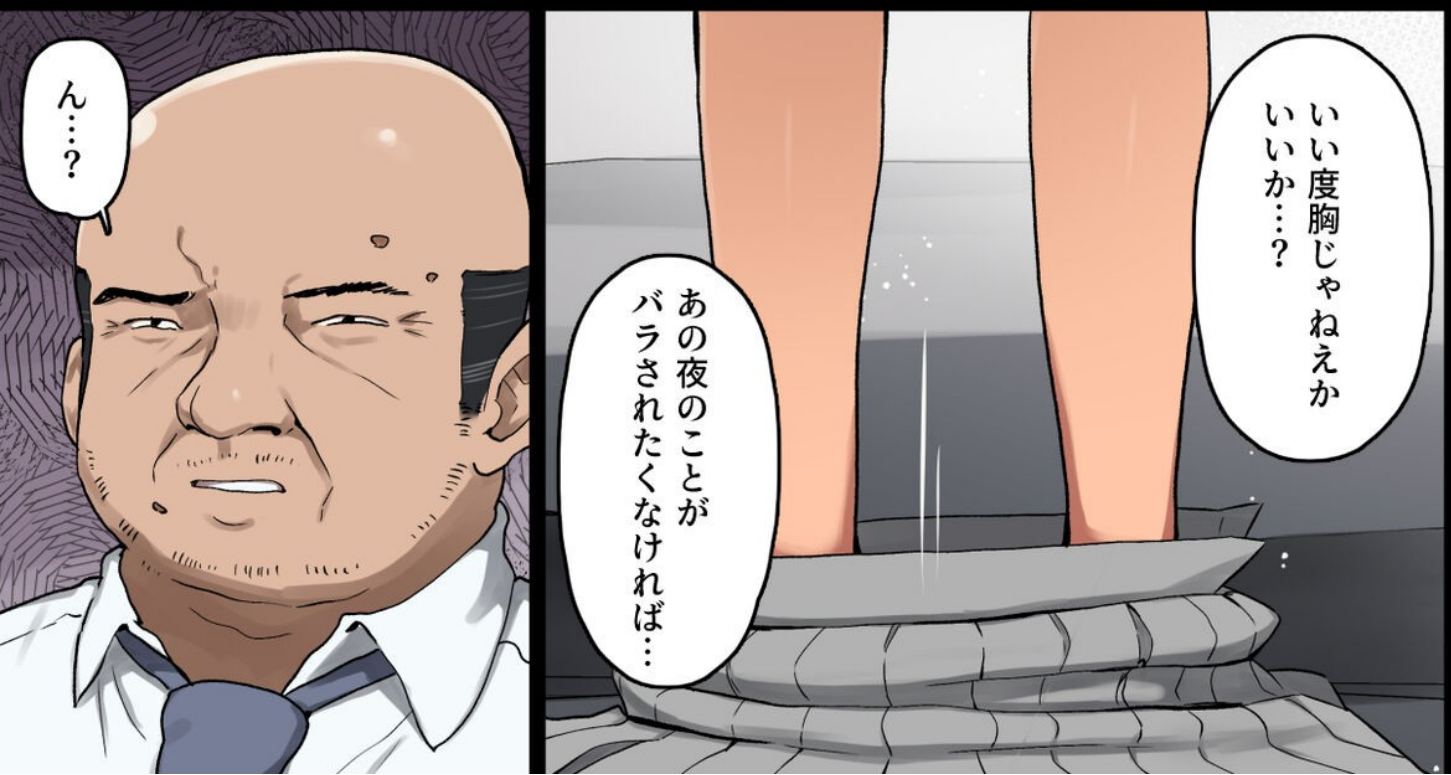

奥…っ！
ふかぁっ…！♥
ビクッ
あっ
あんっ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ビクッ
ズロロロッ
ドムッ
ドムッ
ドムッ
あっ
んあっ
あ
あ


びゅるるっ!!
ビクッ
んあっ
あ
ビクッ
あ～～っ
あ
ドクッ
ドクッ
ドクッ
ドクッ
はぁ…っ
はっ
はぁ…
はぁ…っ
んぁ♥
ビクッ
ビクッ


驚いたぞ高瀬…
お前が自分から俺の言いなりになるとはな…！
フーッ
フーッ
フーッ
本当は俺からあの夜のことで脅してやろうと思ってたんだが―
え？あぁ……修学旅行のことですか？
えーっと、そうですね特に何も……です
え？いや誰にも…親にも言ってないです
はい…
今日ですか…？
はい、大丈夫です…部活の後だったら……




やっぱりお前は
ちょろいなぁ…！
ニィ
のこのこ男の家に
着いてきやがって…


いい度胸じゃねえか
いいか…？
あの夜のことが
バラされたくなければ…
ん…？


そういうのいいですから…
セックス…するんですよね？
むわっ
むわっ
スルッ
ピキ。。
先生…？

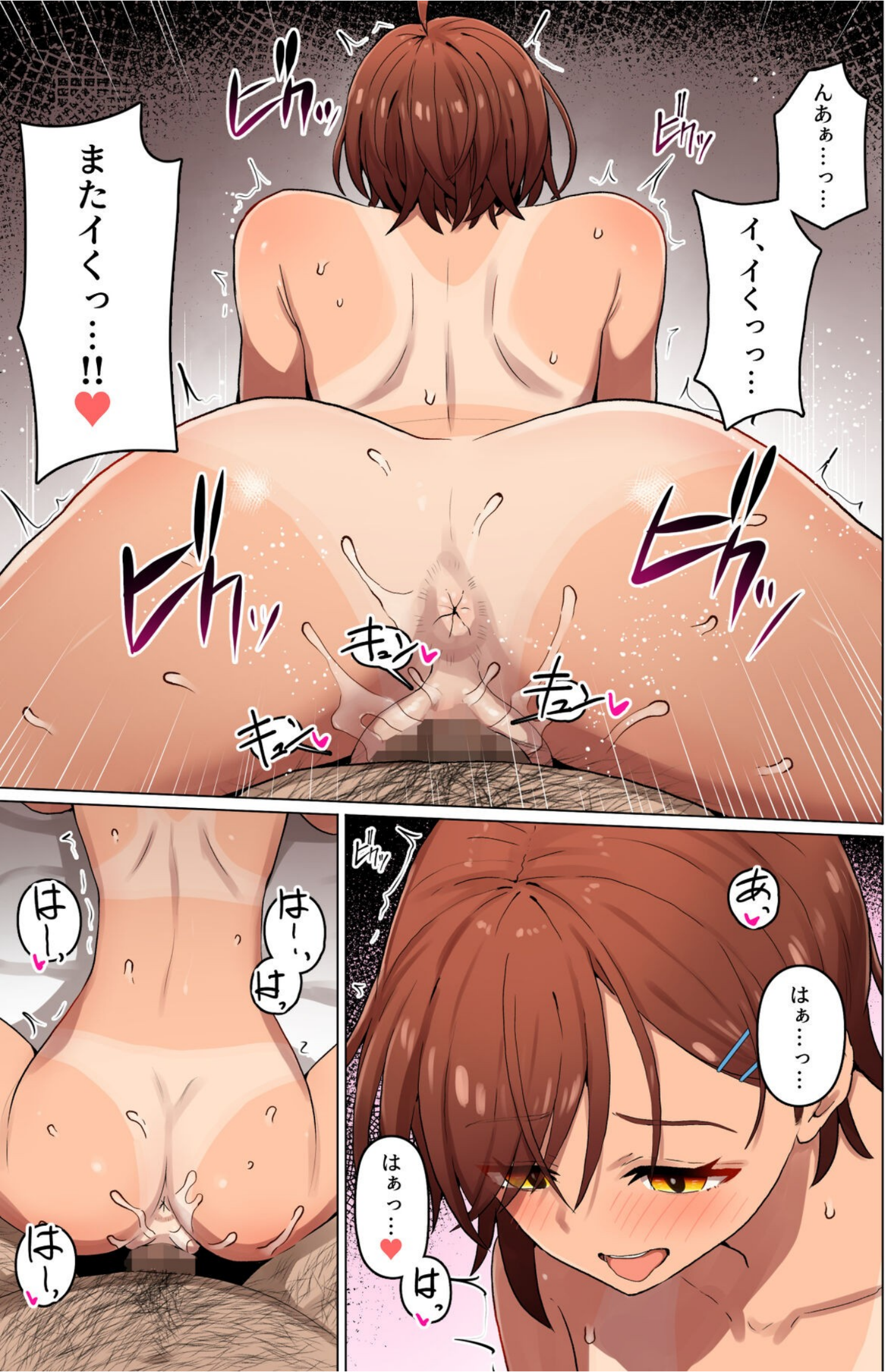

JKのくせにやけにエロい
雰囲気で誘いやがって…
ドサッ
盛りのついた
メスみてえによ…！
ドロッドロじゃねえか…

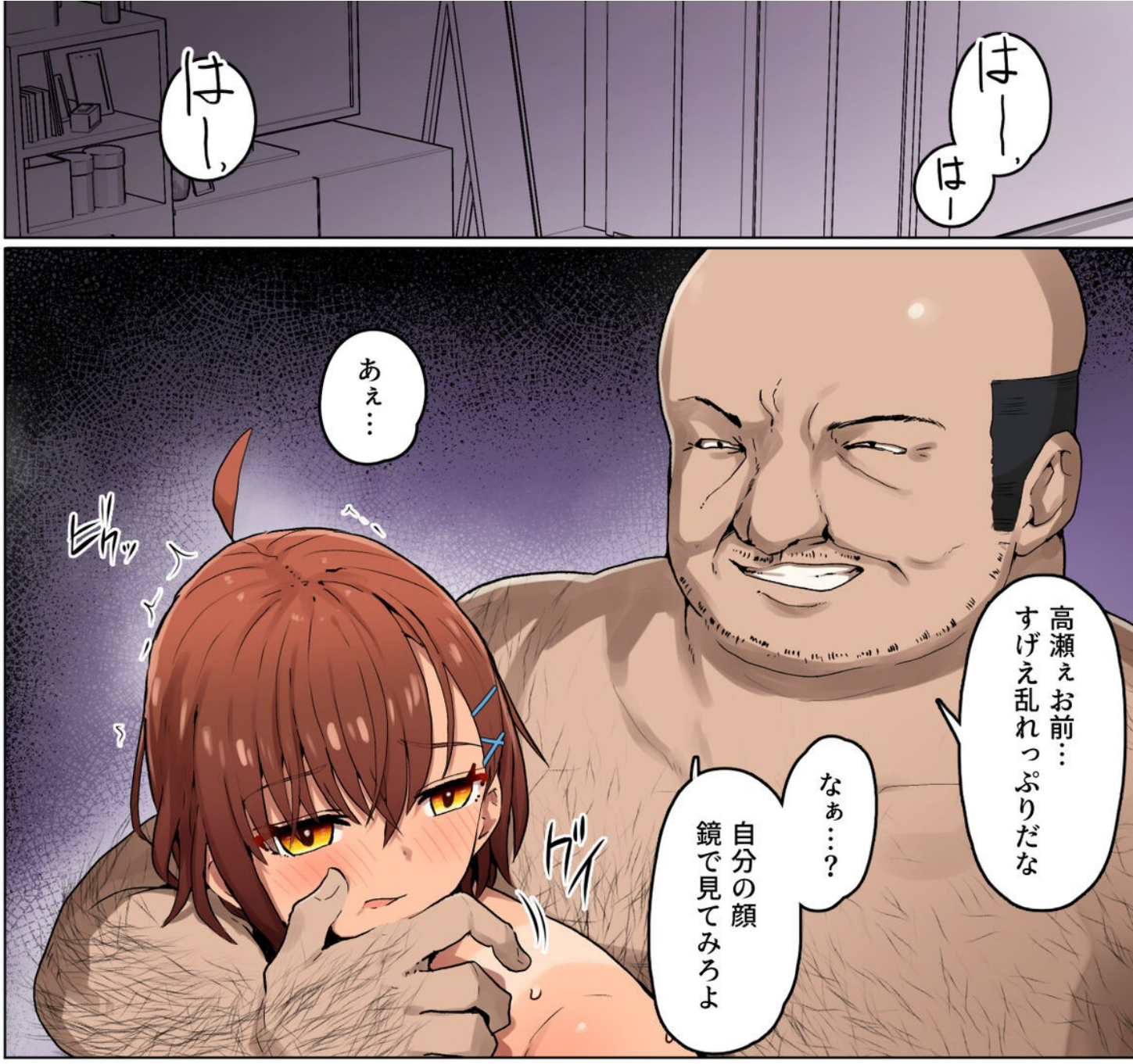

パチュ
あんっ
んっ
パチュ
あんっ
パチュ
んっ
パチュ
パチュ
グチュ
グチュ
グチュ
ビクッ
おいおい…自分から腰ふってんじゃねえよ
あっ
ズチュ
ビクッ
あっ
グポッ
あっ…！
んあっ♥
ズチュ
ズチュ

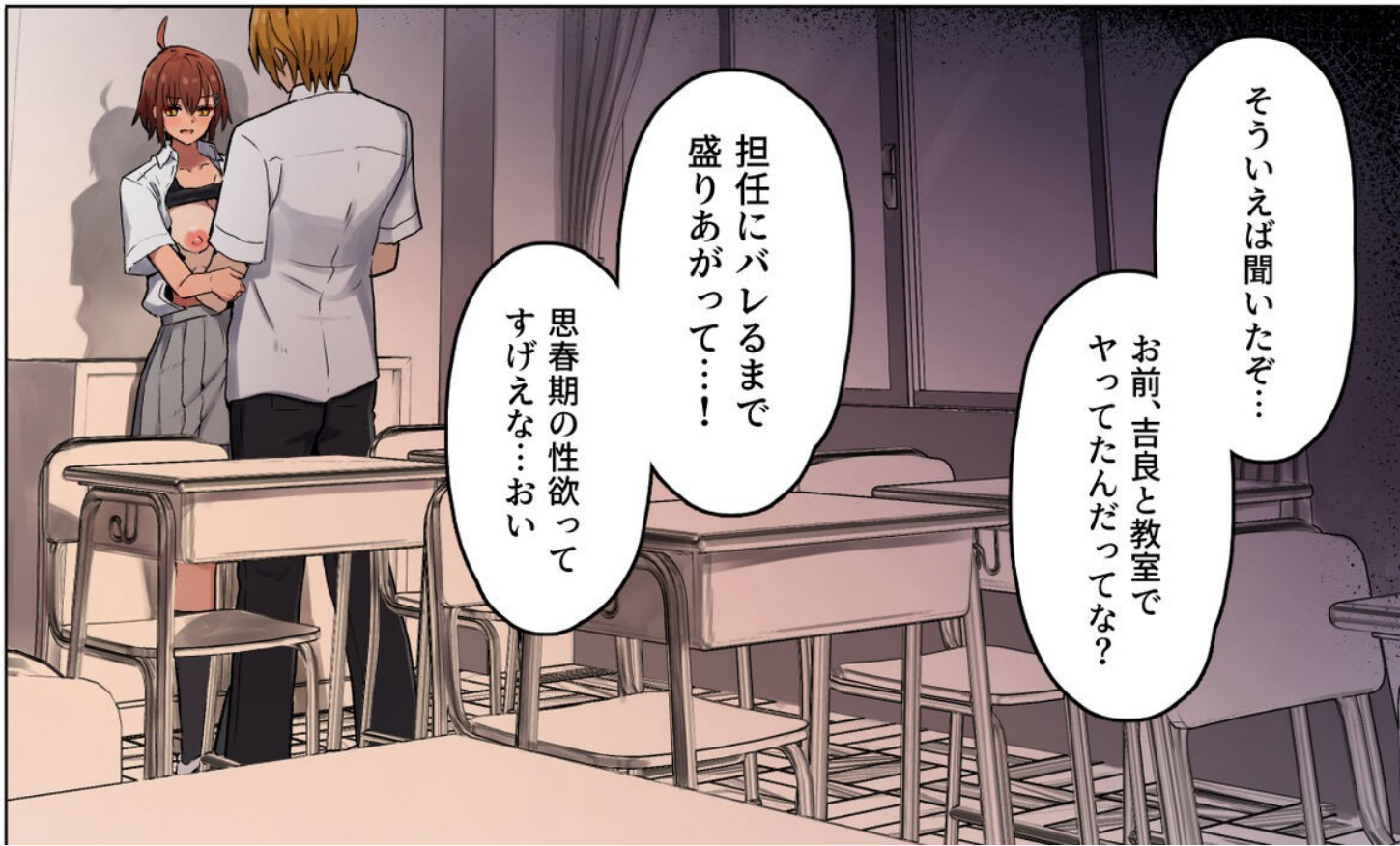

私、何回イってるんだろ…
おっ
おっ
ビクッ
おほっ
お
でも先生のちんぽっ…
気持ちよすぎて…♥


腰止まんないよぉ…♥
パチュ
パチュ
パチュ
パチュ
ぐっ
ビクッ
うっ
んっ
ぐっ
ビクッ
ぐぐっ
ブルン
ブルン
トロン…


膣奥まで届くっ
大きいおちんちんっ
ごりゅごりゅって
えぐってくるの♥
子宮の入口に
キスしてくれるっ♥
ゴリュ
ゴリュ
あはぁっ…♥
これすごぉっ
好きぃっ…♥
大きいおちんちん
最高…っっ!!♥
ブルン
ブルン
ビクッ
ビクッ
バチュ
バチュ
バチュ
バチュ
ゴリ
ゴリ
ゴリ

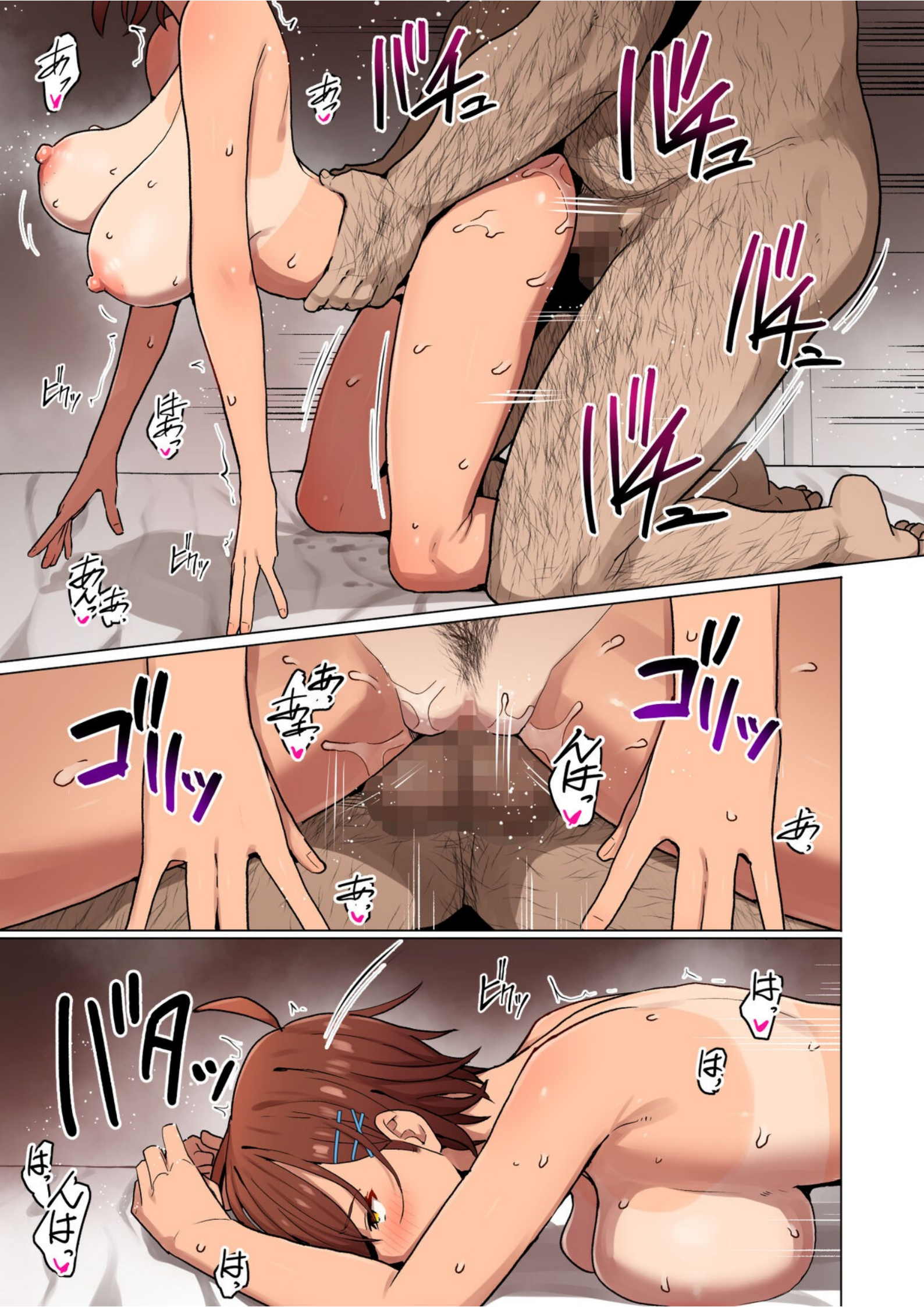

んあぁ…っ…
イ、イくっっ…
またイくっ…!!
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
キュン
キュン
キュン
あっ
はぁ…っ…
はぁっ…
はっ
はーっ
はっ
はっ
はっ

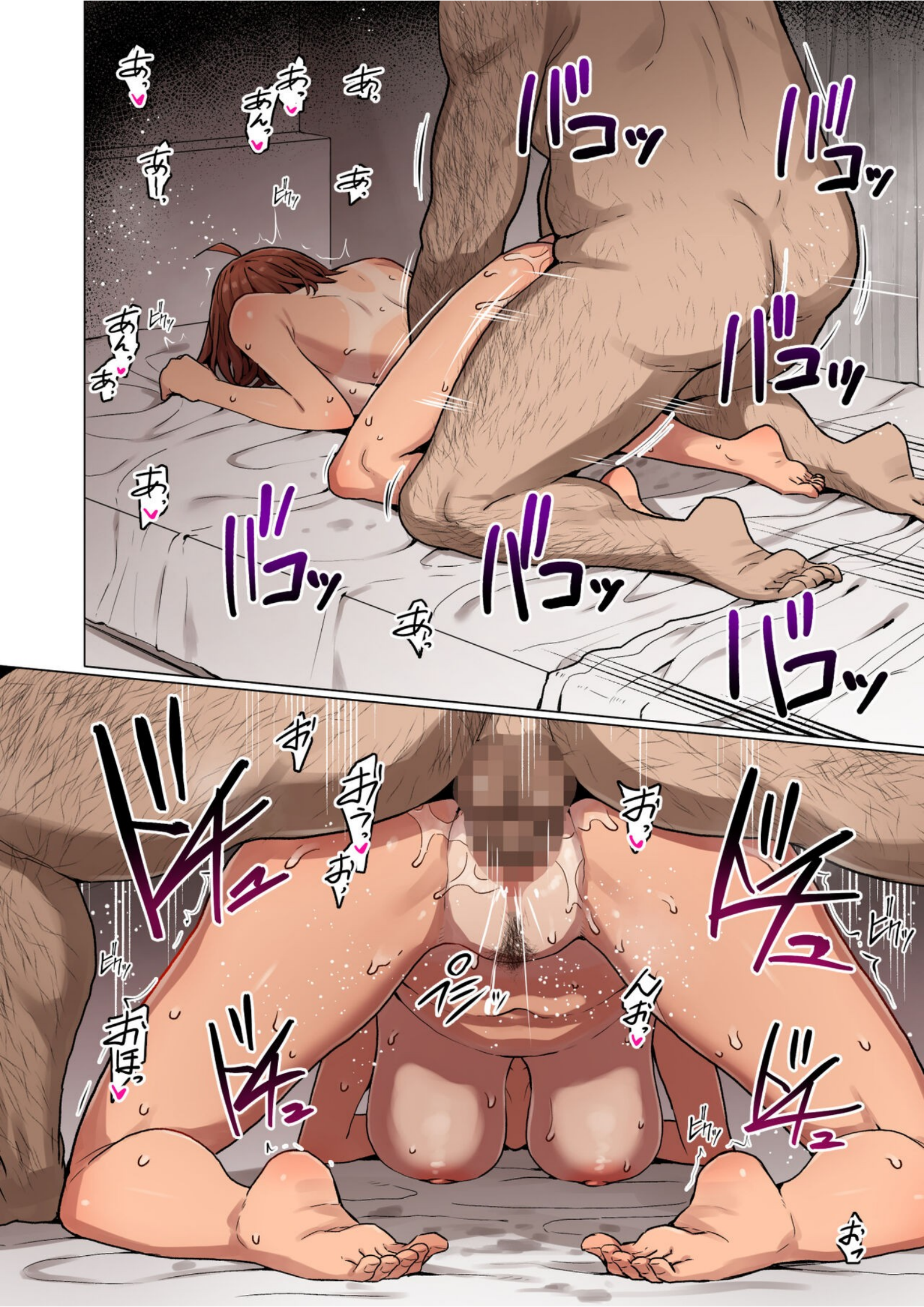

はー、
はー
はー、
高瀬ぇお前…
すげえ乱れっぷりだな
なぁ…？
自分の顔
鏡で見てみろよ
あぇ…
ビクッ
グイ


そういえば聞いたぞ…
お前、吉良と教室で
ヤってたんだってな？
担任にバレるまで
盛りあがって…！
思春期の性欲って
すげえな…おい


あはぁ…！
んあっ
もっと…！♥
ビクッ
ビクッ
あっ
あっ
あっ
パンッ
パンッ
パンッ
グボッ
グボッ

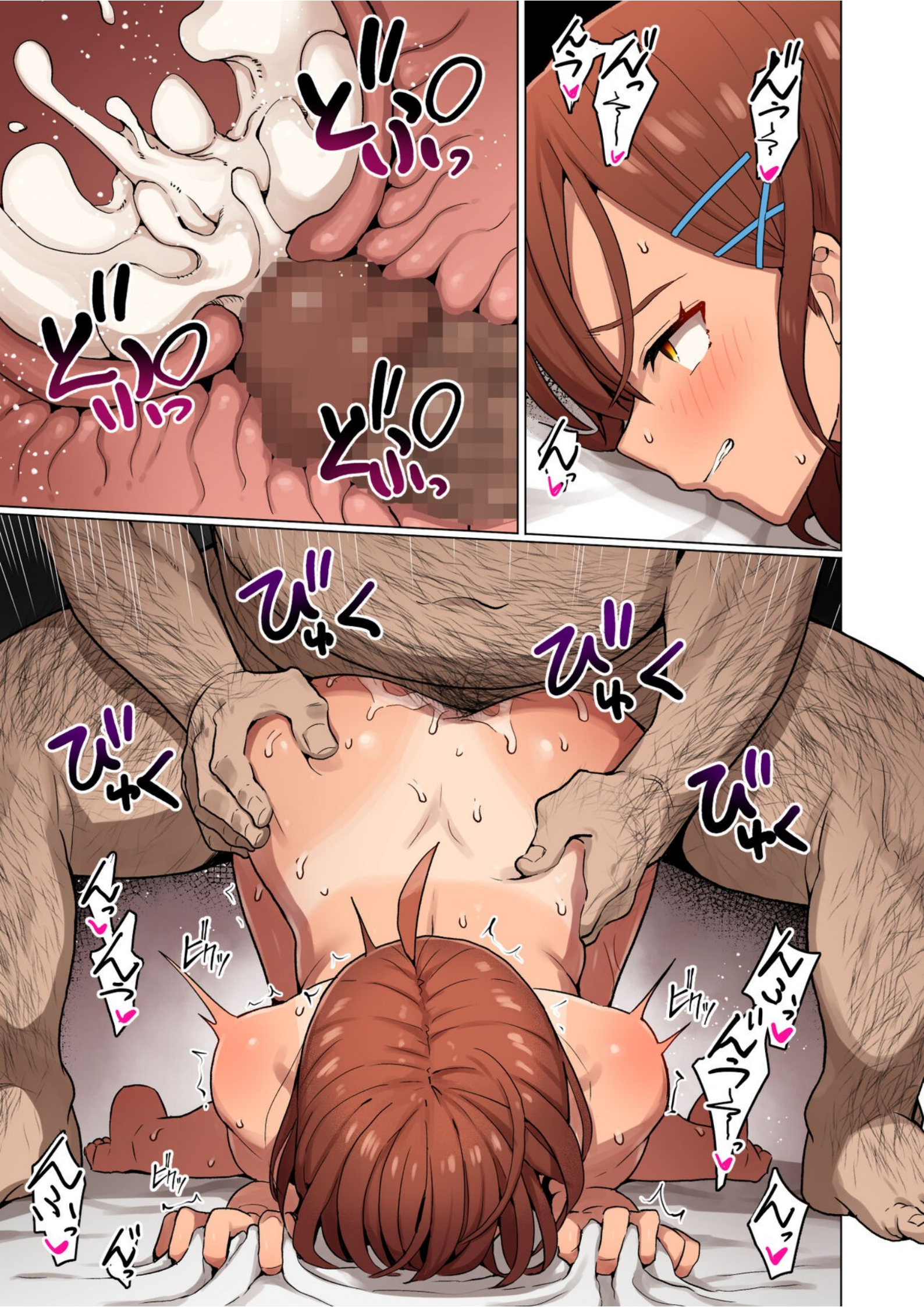

彼氏はもういいのか？
誰にでも股開きやがって！
とんだ性欲お化けだったみてえだな、お前はよ…！
だって…！
我慢できないもんっ！
気持ちいいの
我慢むりっ…！♥
大きなおちんちんには
素直になっちゃうのぉ…！♥
突いてっ…！♥
もっと…！
激しいのきてぇ♥
ビクッ
ハッ♥
ドスッ
ドスッ
ビクッ
ドスッ
ビクッ
グボッ
カリパッ
グボッ


あっ
あっ
バチュ
バチュ
バチュ
バチュ
ビクッ
はっ
ビクッ
あんっあっ
ゴリッ
あっ
ゴリッ
んはっ
あっ
あっ
あっ
バタッ
ビクッ
はっ
はっ
はっんはっ
はっ


あっ
あっ
あんっ
あ
あ
あ
ビクッ
あんっ
ビクッ
あ
あ
バコッ
バコッ
バコッ
バコッ
バコッ
バコッ
お
お
お
お
お
ドチュ
ドチュ
ドチュ
ドチュ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
おっ
おっ
おほっ
パニッ
んお
おっ

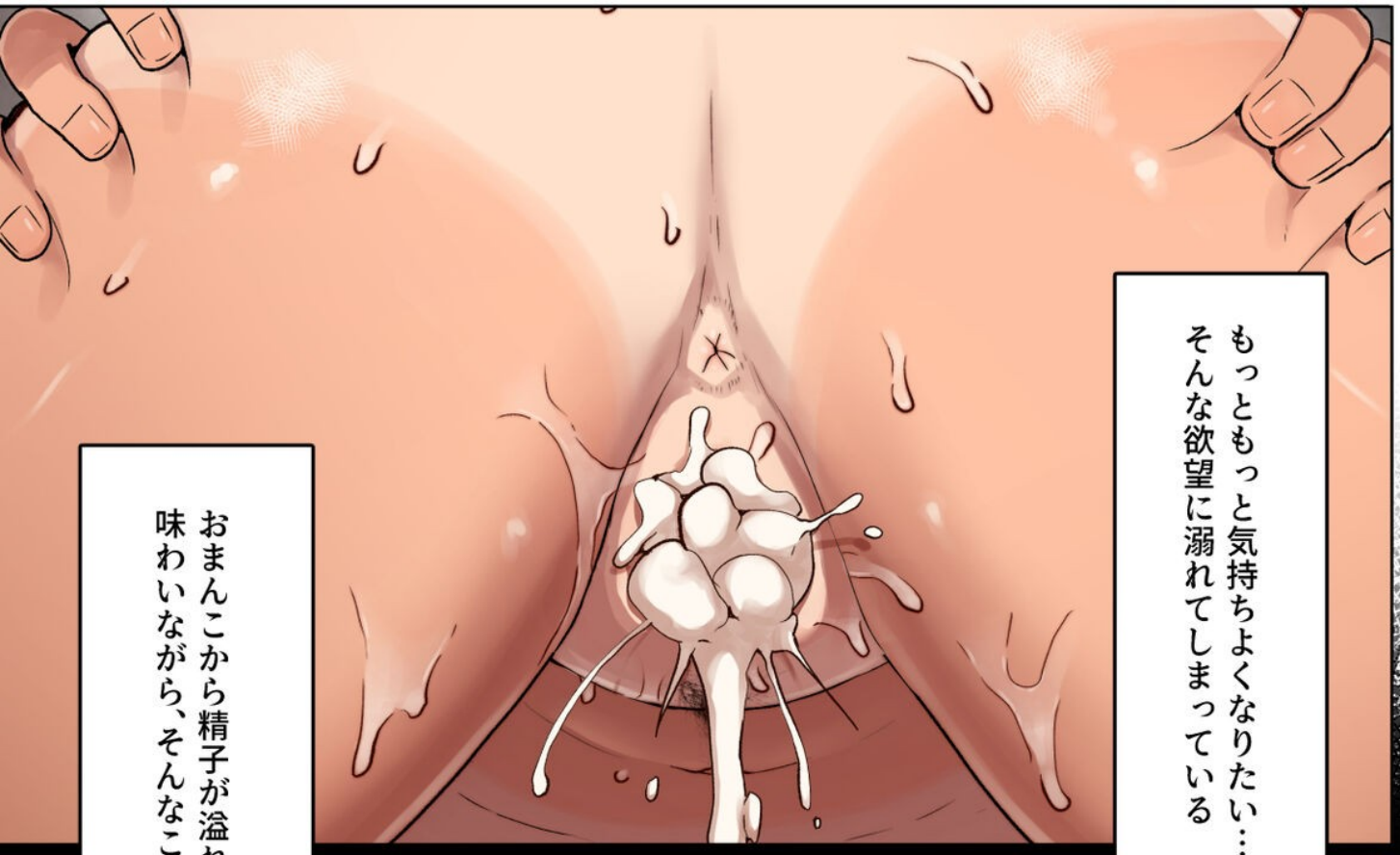

あっあっ
ビクッ
あ
んあっ
パン
パン
パン
ビクッ
あ
あ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
あ
ビクッ
あっあっ
あ
ビクッ
あんっ
あ
あ
あんっ


グルン
あっ
ビクッ
あ、あぁっ!
ビクッ
んあ!
あ!
あっ
ビクッ
ぴゅるっ
どぴゅ
どぴゅ
ぴゅるっ
どぴゅ
ぴゅるっ


どぶっ
どぶっ
どぶっ
どぶっ
んっ
んっ
んっ
びゅく
びゅく
びゅく
びゅく
んっ
んっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
んっ
んっ
んっ
んっ


ビクッ
んっ
ズポンッ
ビクッ
んっ
はぁ…っ
ビクッ
はぁ…
はぁっ…♥
グヒュ
グヒュ
グヒュ
はぁっ…
もっとください…っ♥
気持ちいいの…っ
もっと…っ！♥


その後も散々犯され
私は気がつきました
自分の性欲の強さと…
自分が強いオスに服従する
しかないメスであることに……


もっともっと気持ちよくなりたい…
そんな欲望に溺れてしまっている
おまんこから精子が溢れ垂れていく感触を
味わいながら、そんなことを考えていました……


数日後
とある街中にて


あっ
ユカリちゃんだ…
誰だろ、あの男の人……


や、やあ…
久しぶり……
その人は……
新しい彼氏……？
あ…
ユウイチ君…


うん、まぁ…
そんなとこ……
じゃあね
スーッ
あ…うん……
今の誰？
友達…？
うん…そう…
へー…高瀬
あれ系の男友達いんだ
まぁ…ね
でも最近はああいう子とは
仲良くしないようにしてる…
男の子は強そうな方が…
かっこいいしね……
Fin

奥付

修学旅行、彼女奪られる熱帯夜
-堕ちるメス犬、去る彼女-

発行日：2023年6月25日
発行者：クルマヤ公道
Twitter：@hino_kuruma_ya
Pixiv：@kurumayakoudo

お手に取ってくださりありがとうございます！

ユカリちゃんの修学旅行シリーズの完結話です。いかがでしたか。正直自分でもユカリちゃんがかなり好きになってしまったので、終わらせるのは寂しいです…エッチな顔もいいんですが、普段のスンとした顔がかなり好みです。

今回は漫画の描き方を変えて、読みやすくする試みをしました。その分ページ数も増えて大変でしたが完成できて良かったです。

今シリーズは可愛いキャラクターが描けたので次回作はもっとフェチ感を磨いた作品を作ろうかなと思っています。

感想、レビューなど頂けると嬉しいです。
次刊も是非よろしくお願いします！



*作品の無断転載や複製は禁止しています。


クルマヤ公道
Presented by KURUMAYA KOUDO

